

四隅突出型墳丘墓の一覧〔可能性のあるものも含む〕

名称	所在地	大きさ(m)	貼石・列石	時期	名称	所在地	大きさ(m)	貼石・列石	時期
[備後]					47 洞ノ原1号	鳥取県淀江町	5.4×6.5	有	-1
1 宗祐池西1号	広島県三次市	10.5×5	有		48 洞ノ原3号	鳥取県淀江町	3.9×4.2	有	-1
2 宗祐池西2号	広島県三次市	3.8	有		49 洞ノ原4号	鳥取県淀江町	3.6×4.3	有	-1
3 殿山38号	広島県三次市	13.7×7	有		50 洞ノ原5号	鳥取県淀江町	2.1×2.0	有	
4 殿山39号	広島県三次市	(未調査)	有		51 洞ノ原7号	鳥取県大山町	4.4×4.0	有	-1
5 陣山1号	広島県三次市	5.2×3.5	有		52 洞ノ原8号	鳥取県大山町	4.9×4.4	有	-2
6 陣山2号	広島県三次市	12.7×6.3	有		53 洞ノ原9号	鳥取県大山町	2.1×2.0	有	-1か2
7 陣山3号	広島県三次市	5×6.2	有		54 洞ノ原10号	鳥取県大山町	1.95×1.6	有	
8 陣山4号	広島県三次市	9.0×4.7	有		55 洞ノ原11号	鳥取県淀江町	1.55×1.25	有	
9 陣山5号	広島県三次市	2.9×4.5	有		56 洞ノ原12号	鳥取県淀江町	1.15×1.25	有	
10 矢谷1号	広島県三次市	全長18.5	有	-4	57 洞ノ原13号	鳥取県淀江町	1.4×1.25	有	
11 岩脇1号	広島県三次市				58 洞ノ原16号	鳥取県淀江町	1.5×1.2	有	
12 岩脇1号	広島県三次市				59 洞ノ原17号	鳥取県淀江町	1.5×1.25	有	
13 佐田谷1号	広島県庄原市	19×14	有	-1	60 仙谷1号	鳥取県大山町	一辺15	有	-2
14 田尻山1号	広島県庄原市	10.9×9.6	有	-1	61 仙谷2号	鳥取県大山町	7.4×7.1	有	-2
[安芸]					62 徳楽	鳥取県大山町	19×18	有	-4
15 歳ノ神3号	広島県千代田町	10.3×3.7	有	-1~2	63 父原1号	鳥取県溝口町	12×	有	-4
16 歳ノ神4号	広島県千代田町	10.2×6.4	有	-1~2	64 父原2号	鳥取県溝口町	9.5×6	無	-4
[石見]					[東伯耆]				
17 順庵原1号	島根県瑞穂町	10.8×8.3	有	-1~2	65 阿弥大寺1号	鳥取県倉吉市	13.6×	有	-1~2
[出雲]					66 阿弥大寺2号	鳥取県倉吉市	6.4×	有	-2~3
18 西谷1号	島根県出雲市	9.5×7	有	-3	67 阿弥大寺3号	鳥取県倉吉市	6.2×	有	-1~2
19 西谷2号	島根県出雲市	35×24	有	-3	68 藤和	鳥取県倉吉市	9.6×8.5	有	-4
20 西谷3号	島根県出雲市	40×30	有	-3	69 柴栗	鳥取県倉吉市	南北7.1以上	有	-2
21 西谷4号	島根県出雲市	32×26	有	-3	70 宮内1号	鳥取県東郷町	17×9.25	有	-2~3
22 西谷6号	島根県出雲市	17×8以上	有	-4	[因幡]				
23 西谷9号	島根県出雲市	43×33	有	-4	71 糸谷1号	鳥取県国府町	14×12	有	-4
24 中野美保	島根県出雲市	11×9	有	-3~4	72 西桂見	鳥取県鳥取市		有	-2~3
25 青木	島根県出雲市		有	-3	[美作]				
26 布志名大谷1号	島根県玉湯町	10.7×7.7	有	-3	73 竹田8号	岡山県鏡野町	14×5.5	有	-1
27 布志名大谷2号	島根県玉湯町	6.5×5以上	有	-3	[播磨]				
28 布志名大谷3号	島根県玉湯町	一辺2.3以上	有	-3	74 周遍寺山1号	兵庫県加西市	9.5×6	有	
29 間内越1号	島根県松江市	8.8×6.7	有	-3~4	75 船木南山	兵庫県小野市	14×13.5	有	?
30 来美1号	島根県松江市	10×8	有	-3~4	[越前]				
31 的場	島根県松江市	8×13以上	有	-3	76 小羽山22号	福井県清水町	9×6	無	-3
32 友田	島根県松江市	東西10.5	有	-1?	77 小羽山23号	福井県清水町	8.7×7	無	-3
33 南講武小廻	島根県鹿島町		有	-4	78 小羽山24号	福井県清水町	13×13	無	-3
34 仲仙寺8号	島根県安来市	(未調査)			79 小羽山30号	福井県清水町	26×22	無	-3
35 仲仙寺9号	島根県安来市	18×15	有	-3	80 小羽山33号	福井県清水町	7×5	無	-3
36 仲仙寺10号	島根県安来市	18×18	有	-3	81 小羽山47号	福井県清水町	4.4×4.4	無	-3
37 宮山号	島根県安来市	18.8×15	有	-4	82 高柳2号	福井県高柳町	6.5×5.5	無	
38 安養寺1号	島根県安来市	20×16	有	-4	[加賀]				
39 安養寺3号	島根県安来市	(不明)	有	-4	83 一塚21号	石川県松任市	一辺18	無	-4
40 塩津山6号	島根県安来市	31×27.5	有		[越中]				
41 塩津山10号	島根県安来市	32×26	有		84 杉谷4号	富山県富山市	一辺25	無	-4
42 下山	島根県安来市	25×17	有	-4	85 富崎1号	富山県婦中町	一辺21.7	無	-4
43 カウカツ1号	島根県伯太町	11×7	有	-3	86 富崎2号	富山県婦中町	一辺17以上	無	
44 大城	島根県西郷町	18.2×	有	-3~4	87 富崎3号	富山県婦中町	22×21	無	-3
[西伯耆]					88 六治古墳	富山県婦中町	一辺24.5	無	-4
45 日下1号	鳥取県米子市	一辺10	有	-2	89 鏡坂1号	富山県婦中町	一辺24.1	無	-4
46 尾高浅山1号	鳥取県米子市	9.7×7.1	有	-1	90 鏡坂2号	富山県婦中町	一辺14	無	-4
					[岩代]				
					91 箱ノ内1号	福島県塩川町	9×8.7	無	弥生末~古墳初
					周溝墓				

よ すみ とつ しゅつ がた ぶん きゅう ぼ
四隅突出型墳丘墓

四隅突出型墳丘墓は、弥生時代中期の後半（約2,100年前）に、中国地方一の大河、江の川をさかのぼった中国山地の山あい誕生しました。上から見た形が四角形で、その四隅が舌のように突き出ているのでこの名前がつけました。最初は、規模も小さく突出部もあまり目立たない形でした。しかし、弥生時代後期（約2,000年前）になると、日野川を下り、妻木晩田遺跡の洞ノ原2号墓を端緒にして、伯耆地方を中心に一気に分布を広げます。規模も少しずつ大きなものが造られるようになり、突出部も急速に発達していきました。

弥生時代後期の後半（約1,900年前）になると、分布の中心を出雲地方に移して墳丘の一層の大型化が進むとともに、分布する範囲を北陸地方などにも広げていきました。しかし、弥生時代の終わりとともに忽然とその姿を消してしまうのです。

このことから、四隅突出型墳丘墓は、前方後円墳に象徴される古墳時代の幕開けを前に、山陰地方や北陸地方などで地域の有力首長の墓として築かれたと考えられています。出雲の王墓、西谷3号墓では、地元の土器とともに吉備（今の岡山県と広島県東部）や北近畿（兵庫県と京都府の北部）などの土器も多量に供えられ、中国の歴史書に「倭国大乱」として記されたこの時期、地域間の交渉が盛んに行われていたことも垣間見えてきました。

これまでに可能性のあるものも含めると全国で約90基の四隅突出型墳丘墓が見つっていますが、ここでは、その特徴を県内の遺跡を中心に見ていきましょう。



鳥取県埋蔵文化財センター

〒680-0151 鳥取県岩美郡国府町宮下1260
TEL 0857-27-6711 FAX 0857-27-6712
http://www.pref.tottori.jp/maibun/

引用文献 島根県古代文化センター・島根県埋蔵文化財調査センター 2003 「宮山古墳群の研究」ほか

写真提供 倉吉博物館・淀江町教育委員会・溝口町教育委員会

【編集 松井 潔 / 2003.12】

洞ノ原墳丘墓群

西伯郡淀江町・大山町

洞ノ原墳丘墓群は、眼下に弓ヶ浜半島を望む標高約110mの丘陵の上にあり、30m四方ほどの範囲に全部で18基以上の墳丘墓が密集しています。このうち、四隅突出型墳丘墓は11基ありますが、中でも2号墓は、突出部がほとんど発達しておらず、弥生時代後期の初めにさかのぼる山陰地方最古の四隅突出型墳丘墓です。墳丘墓群はその後、約100年にわたり造り続けられたので、突出部が次第に大きくなる過程がよくわかります。また、他に例のない一辺が1.5mほどの小さな墳丘墓が13基以上、大きな墳丘墓を取り巻くように所在し、子供の墓ではないかという説もあります。仙谷墳丘墓群とともに妻木晩田遺跡として国史跡になっています。



洞ノ原4号墓



洞ノ原6号墓



洞ノ原11号墓

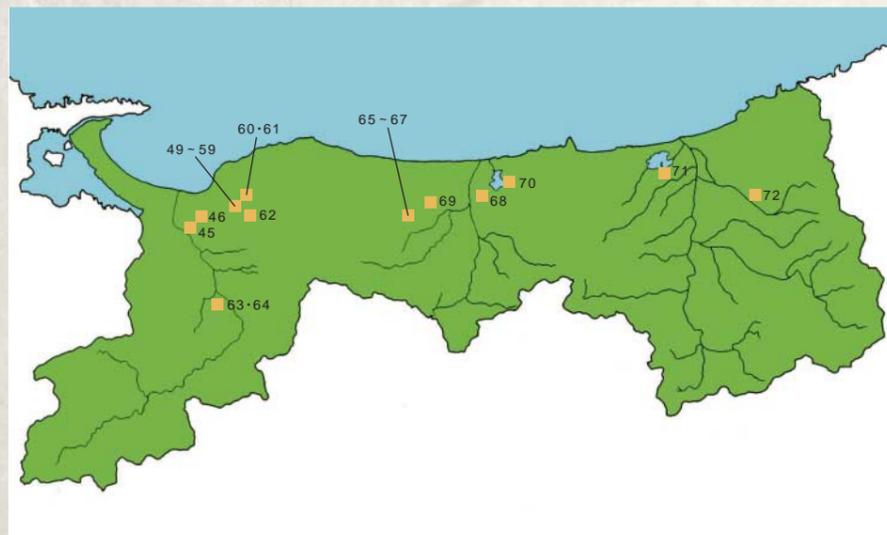


父原墳丘墓群 [手前が2号墓]

父原墳丘墓群

日野郡溝口町

父原墳丘墓群は、日野川の中流にある標高140mの尾根の上に造られています。3基の墳丘墓が見つかりましたが、このうち形がわかったのは1号墓と2号墓で、いずれもが四隅突出型墳丘墓です。1号墓では、墳丘の斜面や突出部に板石などの大きな石が貼られています。一方、2号墓は、山陰地方では他に例がない貼石のない四隅突出型墳丘墓でした。父原墳丘墓が造られたのは、隣りの出雲地方で王墓として大型の四隅突出型墳丘墓が相次いで造られた時期です。1号墓と2号墓の造りの違いは、あるいは出雲の王との力関係の違いを示しているのかもしれませんが。



県内の四隅突出型墳丘墓の分布 (番号は一覧表の番号と一致します)

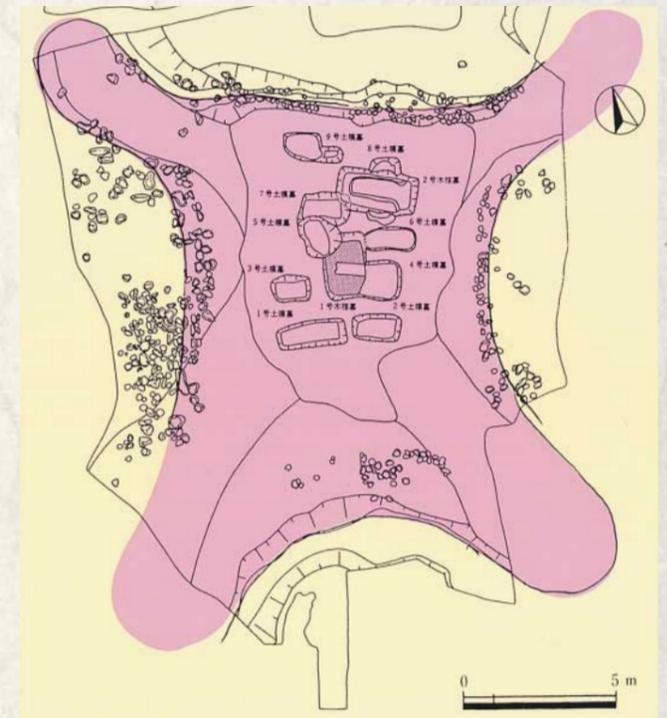


阿弥大寺墳丘墓群 [手前から3~1号墓]

阿弥大寺墳丘墓群

倉吉市

阿弥大寺墳丘墓群は、天神川の支流、国府川沿いの緩やかな斜面に造られています。3基の四隅突出型墳丘墓が見つかりましたが、いずれも北側半分以上はすでに壊れていました。残っている部分の墳丘斜面や突出部には、大小の川原石が貼られ、細長く発達した突出部の上面には墳丘への通路となる踏み石も貼られていました。特別な人が墳丘の上での儀式へ向うための通路とみられています。当時の墓の様子を知るために貴重として国史跡になっています。



糸谷1号墓平面図

糸谷1号墓

岩美郡国府町

糸谷1号墓は、国府平野を見下ろす標高約75mの尾根の先端に造られています。突出部が大きく張り出していて、弥生時代終わり頃の四隅突出型墳丘墓の特徴をよく表しています。この地域を支配していた首長が、その権力を誇示するために出雲の首長との強いきずなを示そうとしてこの形を採用したのではないのでしょうか。

四隅突出型墳丘墓の変遷 [模式図]

時期の I は弥生時代中期の後半、 II は弥生時代後期を示します。 III 期の1~4は、後期を四段階に区分したもので、1が最も古く4が最も新しい時期を示します(一覧表の時期も同じです)。 IV 期に続く時期は古墳時代になり、四隅突出型墳丘墓は造られなくなります。

時期	安芸・備後・美作	石見・出雲・隠岐	伯耆・因幡	越(北陸)
IV	宗延池 鹿山38 鹿山 鹿山			
V-1	佐田谷1 洞ノ原 竹田	友田	尾高 洞ノ原 阿弥大寺1	
V-2	洞ノ原3-4	順庵原1	日下 阿弥大寺3 仙谷1 仙谷2 阿弥大寺2 宮内1 西柱見	
V-3	西谷3 西谷1 西谷2	布志名1 布志名2 布志名3 的場 神仙寺10 神仙寺9 青木 来美 中野 内庭 カウカツ 大城 下山	西谷 阿弥大寺 宮内1 西柱見	33 22 23 30 47 小羽山 富崎3
V-4	西谷9	西谷6 安楽寺1 富山IV	父原1 父原2 徳楽 糸谷	富崎1 一彦 鏡坂1 鏡坂2 六治古塚